

# 那須与一伝承館通信〈第9回〉

## ◎宇都宮俊綱旗図

今回は那須与一伝承館が収蔵する資料の中から、「軍器図巻」所収 宇都宮俊綱旗図を紹介します。

この旗の図は、天文十八年（一五四九）九月二十七日、下野国塩谷郡喜連川の奥大道の途上、五月女坂（現在、さくら市早乙女の付近）において宇都宮俊綱（一五一三—四九）と戦った那須高資（？—一五五一）が、その勝利の証として俊綱の軍勢から奪い取った軍旗を描いたものです。残念ながら、現在、旗その物の所在は不明です。

図をみると、旗の中央に宇都宮氏の家紋「二左巴」がしるされていきます。また図には朱注（朱書きの注記）が細かく書き込まれており、旗その物の状態を詳しく知ることが出来ます。

例えば、家紋の部分は「紋染ニテハ無之墨ニテ書タル也」と記され、布地に紋を染めていたのではなく、直接、墨で紋を描いていたことがわかります。また「図ノ如クコトゴトクヤブレ有之」とあり、旗全体が著しく破れていることから、高資と俊綱との戦いが、いかに

に激しいものだったのかを示しています。この戦いは、五月女坂の戦いと呼ばれ、領地拡大をねらう俊綱が、二千騎の大軍を率いて那須地域に侵入しようとしたことに始まります。これに対して高資は、三百騎の手勢を率いて奮戦し、家臣の鮎河瀨助右衛門家光が俊綱を射殺して勝利を収めることが出来ました。その結果、宇都宮の勢力は後退を余儀なくされ、これ以後、那須氏を脅かすような事態はなくなりました。

つまりこの旗は、宿敵 宇都宮氏を倒した証であり、那須家の輝かしい武功を示す、記念すべき「軍器」だったのです。



「軍器図巻」所収、宇都宮俊綱旗図（那須家所蔵）

### ■問い合わせ

那須与一伝承館

TEL (20) 0220

## 彫刻

### 市内で作られた作品とその作者

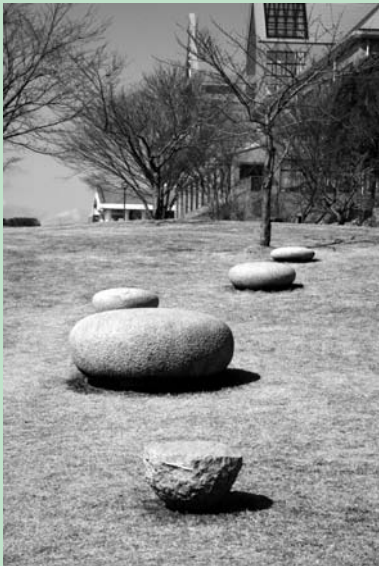
## 周遊 19

このコーナーは、「那須野が原国際彫刻シンポジウム」で公開制作、設置された作品とその作者を連載で紹介しします。

この作品は、ふれあいの丘の芝生広場の東側、シャトー・エスポワールとその東側にある大工房をつなぐ坂道の途中にあります。

河原石のように平たく丸い石が4つ、それらとは趣を異にして表面が少しごつごつして、半分に割れたような石が1つ、合計5つの石が点々と不規則に並んでいます。

もともとは岩盤から切り出された角張った1



### 小路の詩

おおいわ ひさの  
大岩 久乃  
1999年

つの石でした。それが作者の手によって、河原石のように滑らかな肌をもったものへと生まれ変わり、1つだけは原石に近い質感が残され、ちょっとしたアクセントになっています。それらの石をながめっていると、何となくリズムカルな音楽が流れ出てくるような感覚にとらわれます。「寡黙なリズム 石のうた」という作者の言葉はそれを物語ります。

作者は大岩久乃さん。1972年熊本県生まれ。大学在学中には名古屋市浄心町街中彫刻展への出展を重ね、愛知県立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了後は、東京都や愛知県などで個展やグループ展を開催。本市のほかに、インド（2002年）や三重県（2004年）などの彫刻シンポジウムにも参加しています。



大岩 久乃 さん

### 設置場所案内図(★印)



### ■問い合わせ

文化振興課文化振興係 TEL (23) 8718